

# 第61回全国同教大会

## 三重の地で開催

2009年11月、三重県で全国人権・同和教育研究大会（全国同教大会）が開催されます。

【と き】11月28日（土）・29日（日）

【ところ】

全体会行事：四日市ドーム（メイン会場）、桑名市民会館（サブ会場）、鈴鹿市民会館（サブ会場）

分科会：四日市市・桑名市・鈴鹿市内公共施設など

展示と交流：四日市市内公共施設など

【参加者数】約1万2,000人

【参加資料代】4,000円

【研究テーマ】「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう。」

※地元テーマ：みえ発人権文化の具体像 熱と光あふれる未来（あした）を

【内容】

開会全体会：全国同和教育研究協議会からの基調提案、地元報告として、三重県の取り組みを全国にアピール

分科会：①25分科会〔特別分科会を含む〕予定

②さまざまな人権課題の解決をめざした教育・啓発に関する全国からの取り組みを報告・交流・討議します

③教育の課題（いじめ・不登校、高校中途退学、学力保障など）や人権のまちづくりの課題に関わる解決策を見出せるような協議を行います

展示と交流：県内の市町やさまざまな関係組織やNPO、企業などが参加し、バラエティに富んだスタイルで、三重の教育・啓発活動の取り組みや文化などをPRし、全国からの参加者および県民が交流できるような内容

過去、三重県では、第16回（1964年）、第20回（1968年）、第33回（1981年）、第47回（1995年）と4度の全国同教大会が開催されてきました。全国同教大会が開催されることは、県内の人権教育実践の深まりと拡がりにつながっていきます。そのことは、第47回全国同教三重大会開催をきっかけに、県内すべての市町村に人権・同和教育研究団体が組織されるとともに、「教育・啓発の連携」をめざして、学校・地域・行政が連携したさまざまな取り組みが進められるようになってきたことなどの成果としてあらわれています。一人ひとりの子どもたちが、将来への展望を持ち、安心して生き生きと暮らせる社会を実現するために、学校・家庭・地域・行政をはじめ、さまざまな人が、子どもを中心に据えて協働して取り組んでいくことが必要です。三重県の人権教育を深めると同時に、「だれでも」「どこの学校でも」「どの地域でも」という拡がりのあるものとしていくために、市民の皆さんのご参加をお願いします。

**【問い合わせ】**  
 教育委員会生涯学習課 ☎22-9679  
 (社)三重県人権教育研究協議会事務局  
 ☎059-233-5530  
 URL <http://www2.ocn.ne.jp/~sandokyo/>  
 第61回全国人権・同和教育研究大会  
 三重県実行委員会  
 URL <http://www.zendokyo-mie.net>  
 ※最新情報を掲載しています

### 「戦争体験を風化させないために」

8月15日は、「終戦記念日」ですが、戦後64年経った今日でも、深い悲しみは決して消えることはありません。

私は、戦争の話題になると、必ず思い出すことがあります。それは、32歳で戦没者遺族になられた方のお話で、その話しぶりまで忘れられない切ない体験談でした。

……昭和19年6月20日の雨の夜、玄関を叩く音がし、戸を開けると役場の人が立っていました。あつ、ついにうちにも……召集令状が届いたのです。入隊は7月1日で、それまではいろんな所へそれぞれにお参りに行き、必ず生きて帰してください。

いと、決して口に出しては言えませんが一心に祈りました。

出発の日、夫は駅で、見送りの一人ひとりに「子ども頼む、年寄りを頼む、必ず助けてやってくれよ。」と声をかけ、出発していききました。

入隊してから面会できたのは2度で、しかもわずかな時間、2度目は、列車での移動に駅を通過するその一瞬でした。10歳を頭に5人の子どもを連れて電車に乗り、通過す

### 明日に 向かって

～差別をなくしていくために～

ると教えられた駅のホームで待ちました。ようやくスピードを落として列車が入ってきたので、必死で夫を探しました。なんとかお互いに見つけることができても振りましたが、これが最後の別れとなりました。召集されてわずか3カ月半、冷たい海の上での戦死だったそうです。それからの毎日は、地獄の日々でした。子どもと、息子の戦死を聞いて力尽きた両親との生活を支えるために、農作業や土木作業、出稼ぎにも行きました。本当に長くつらい毎日でした。……

涙を溜めながら当時の様子を鮮明にお話したい出来事であったかがうかがえました。

この惨劇から世界のすべての国が達成すべき共通の基準とした『世界人権宣言』が採択され、憲法にも第9条に戦争放棄が掲げられています。それらの条文をしっかりと理解し、守り継承していくことが、今を生きる私たちの責任だと思えます。

（伊賀支所人権同和課）  
 ～黙祷～